



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和6年1月26日
2月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

お見事！

校長 さんべい 三瓶 あつし 淳



本校のシンボルである大イチョウの樹は、すっかり葉が落ちて枝が丸見えです。見ていて寒々しいですが、小さな芽から可愛い葉が出始めるとあっという間に枝が隠れてしまう勢いで成長します。その頃は、春も本番の陽気になっていると思います。

さて、12月号の学校だよりでも書きましたが、毎朝正門前に並んでいる子どもたちは、今でも互いに「一歩、さがって〜。」と声を掛け合いながら横1列に整然と並び、門が開くのを待っています。「**みんなで確認し合って、素晴らしい！**」とその行動を認めながら、門扉を開けています。先頭の子もたちは、誇らしげな表情をしていました。また、正門を通るや否や走り出してしまう子を抑えるために、高学年の運営委員が先頭を歩いて集団を制御しています。時には一人で行う日もありましたが、誰も来ない日はほとんどありません。**高学年の意識の高さ**を感じます。できる（達成する）まで頑張ることも素晴らしいことですが、それを継続し身に付くまで行う（日常化する）ことはさらに大変な努力が必要だと思います。それを実践している子どもたちの姿を朝一番から見られる私は、大きな幸せを感じ、思わず冬晴れの青空を見上げていました♪

ところで、6年生は例年この時期に「マリノスプロジェクト」と銘打ったキャリア教育を行っています。学区内にある日産スタジアムをホームとする横浜F・マリノスを対象とし、子どもたちの思いで大きく4つの部門（①商品グッズ部 ②広報部 ③売り上げアップ！部 ④地域貢献・マリノスタウン開発部）に分かれた後、企画する内容によってさらにいくつかの班に分かれて活動していきます。この活動のよさは、一企業として横浜マリノス（株）さんが、真剣に関わってくださる点です。その一つが、5年前の卒業生がこの活動を通して、キャラクター制作したものが「マリンちゃん」として実用化されたことです。また、発表会当日までに担当者^{そんたく}が来校し、子どもたちの提案（プレゼンテーション）に対して、



1回目の提案時は私も参加し、子どもたちの企画を見ました。タブレットを使い、ネット上にある物を活用したり、加工・編集したりして班としての思いを発表していました。しかし、この時点では「実用化するには、構想が荒い（具体性が乏しい）。」「おもしろい案だけど魅力に欠ける。」など厳しいものでした。そこから約1か月半後の今月24日、横浜マリノス（株）からは社長さんをはじめ6人のスタッフが来校し、体育館で行った子どもたちの発表を審査してくださいました。それらは、微動だにせず聞き入ってしまう提案ばかりでした。社長さんを含め、全員のスタッフからいただく講評も「私たちにはない視点で驚いた。」「実際（現状）を調査し、企画案も現実的だ。」「品物の金額、売上額、当選確率など具体的な数字に信憑性を感じる。」など褒めていただくものばかりでした。中には「毎日一人ずつ本社に来て企画会に参加してほしい。」や「この提案の中から一つでも多くグッズ制作に繋がりたい。」といった嬉しい発言もいただけました。繰り返し、繰り返し**探究的な活動**を行ったからこそ出来上がったこれらの提案は、本当に見事なものでした。ブラボー！

なお、この発表会には、タウンニュースやTVK（神奈川テレビ）の取材が入りました。TV放映の日時が分かり次第、保護者にはメール配信でお伝えしますので、ぜひご覧になってください。